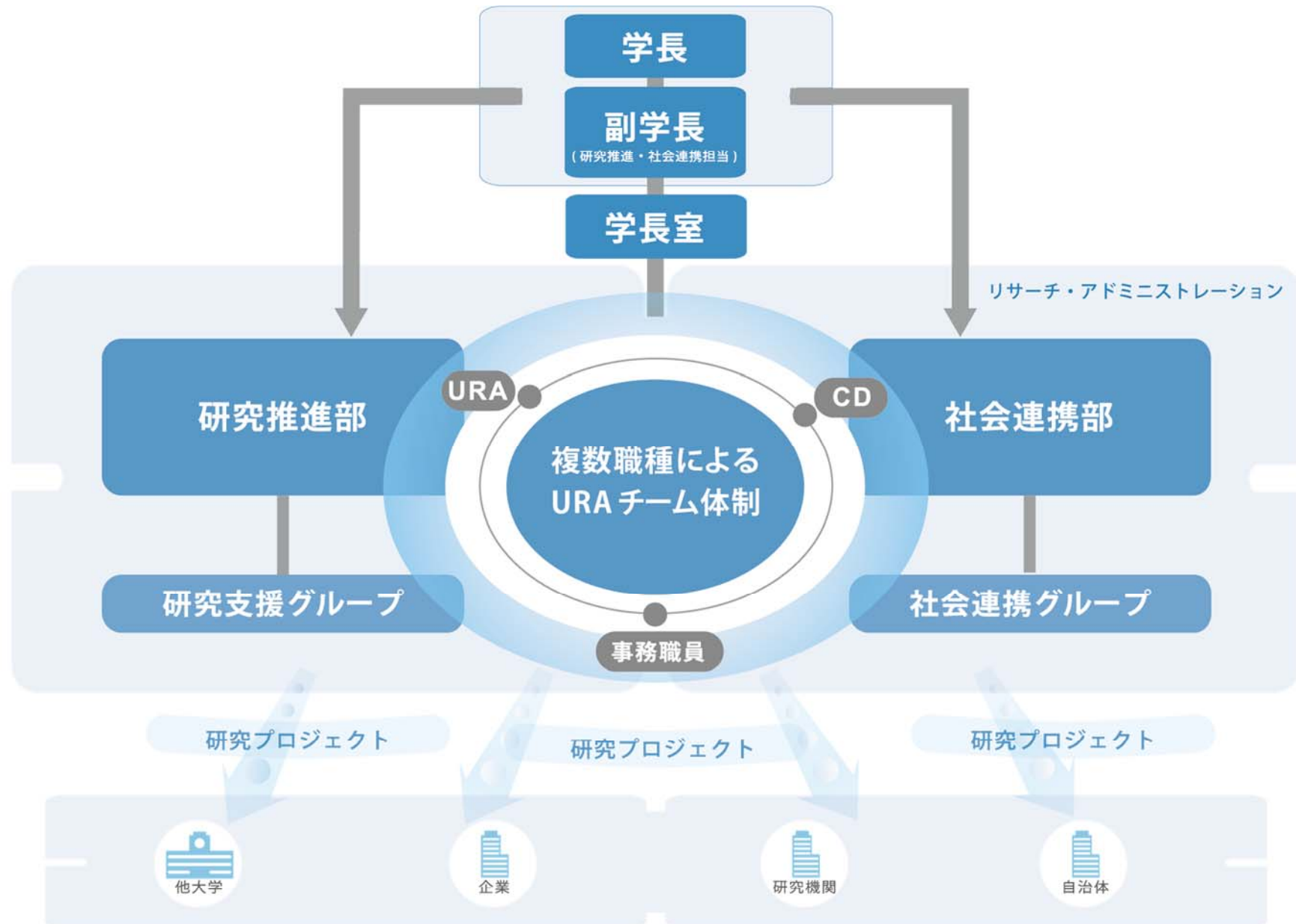


文理融合産学連携による アート鑑賞イノベーション のURA支援

2016.9.2

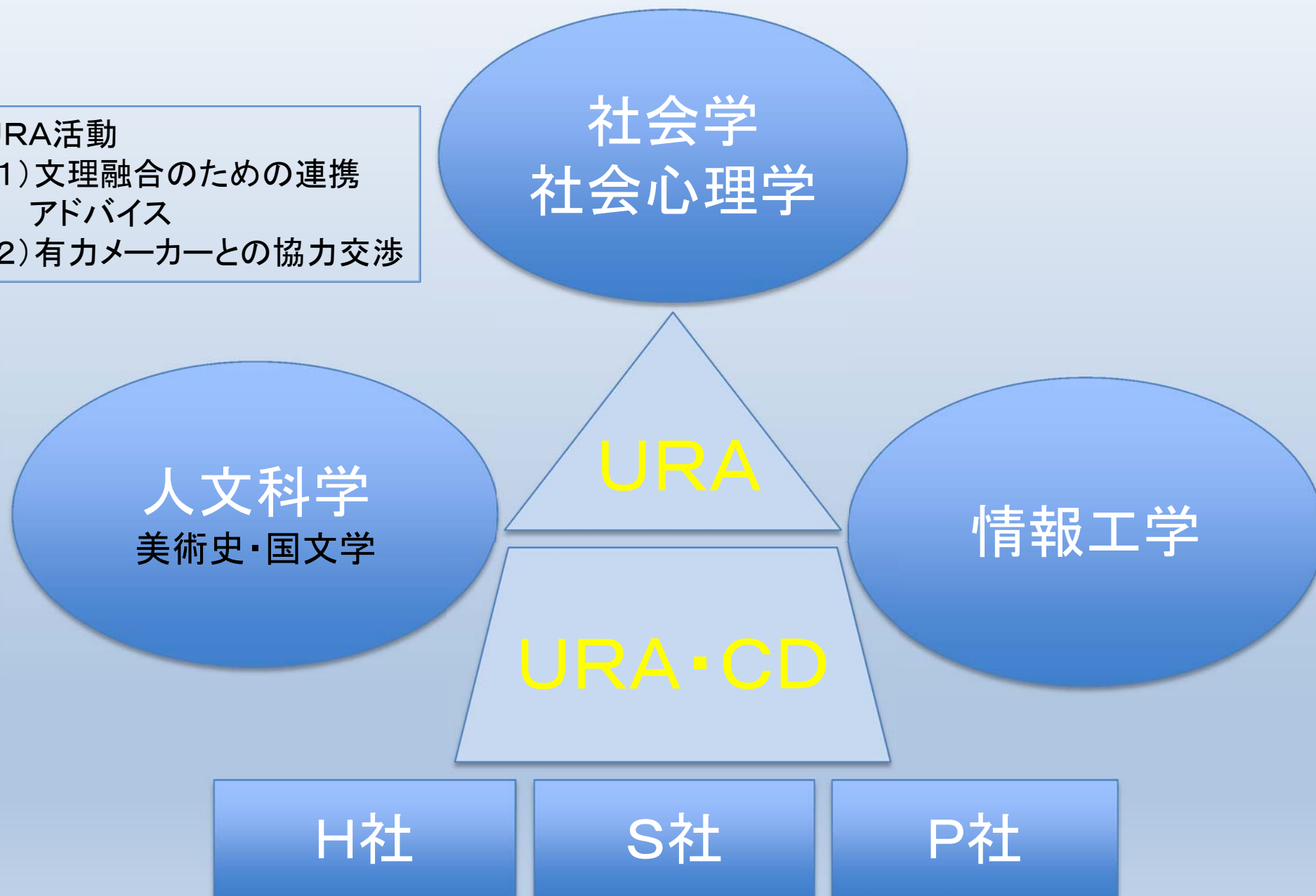
関西大学 シニアURA 角谷賢二





URA活動

- (1) 文理融合のための連携
アドバイス
- (2) 有力メーカーとの協力交渉



- 大坂画壇は幾人かの優れた画家を生んでいるにもかかわらず、世の中に認知されていない。
- 大阪は2度の大火(大塩平八郎の乱、第2次世界大戦での空襲)で多くの貴重品が消失している。
- 一般の人に触れる機会が少ない。



超高精細技術を駆使した
デジタル化に挑戦

元禄時代の大阪に、若冲よりも面白く、
応挙よりも雄大な画家がいた。

大岡春卜

(1680年～1763年)

「浪花及澱川沿岸名勝図巻」

URA活動

- (1) イベントの企画
- (2) 会場運営
- (3) 広報活動

美術館との連携協定

2015. 8. 26

関西大学の研究力と林原美術館の
貴重な収蔵品のデジタル化



研究の進展や展示機会の増大

URA活動

- (1) 連携協定、共同研究締結の交渉
- (2) デジタル化のための企業の協力交渉
- (3) 撮影の手配
- (4) イベントの企画運営



❖ 広報活動

NHK
Yahoo! ニュース
山陽新聞
その他

「大阪」に生まれた大学として

2016.4設立

なにわ大阪

研究センター

URA活動

- (1) センター内の各プロジェクト支援
- (2) イベント企画、ポスター、チラシ作成
- (3) センターの運営委員

創立130周年記念事業

URA活動の成果物

当日のプレゼンテーション
では、美術品の世界一超
高精細デジタル化画像を
特別のソフト、名画ナビ
ゲーションでお見せします。

東海大学版 “イノベーション” 創生 = “研究の峰” 形成に向けた取り組み

東海大学研究推進部研究計画課

渡邊 道彦

東海大学版イノベーションとは？？

イノベーション

- ①新機軸。革新。
- ②新製品の開発、新生産方式の導入、新市場の開拓、新原料・新資源の開発、新組織の形成などによって、経済発展や景気循環がもたらされるとする概念。シュンペーターの用語。また、狭義には技術革新の意に用いる。

(大辞泉より)



無装荷ケーブル方式

長距離ケーブルの途中に増幅器を設置して電流を増幅させ、高周波の電流に音声を乗せて送る搬送方式で、装荷ケーブル方式の欠点を一気に解決し、しかも一回線で複数の通話ができる多重通信を可能とするもの



東海大学はイノベーションから始まった！？

文科系と理科系の相互理解と調和



工学部 文学部

理学部 情報通信学部 情報理工学部

医学部 農学部 生物学部 基盤工学部

法学部 政治経済学部 観光学部

経営学部 国際文化学部

教養学部 海洋学部 健康科学部 体育学部

18学部・77学科・専攻・課程

創造科学技術研究機構

文明研究所

海洋研究所

総合医学研究所

先進生命科学研究所

教育開発研究センター

スポーツ医科学研究所

総合農学研究所

情報技術センター

宇宙情報センター

総合科学技術研究所

沖縄地域研究センター

総合社会科学研究所

平和戦略国際研究所

マイクロ・ナノ研究開発センター

多様な研究所群

本学が実施する事業

To-Collabo

大学改革

グローバル化

第5期科学技術基本計画

地域社会の発展

知の財産の創出

世界への貢献

知の基盤強化

学術研究（基礎研究）

施設設備基盤の強化

オープン・イノベーション

※To-Collabo

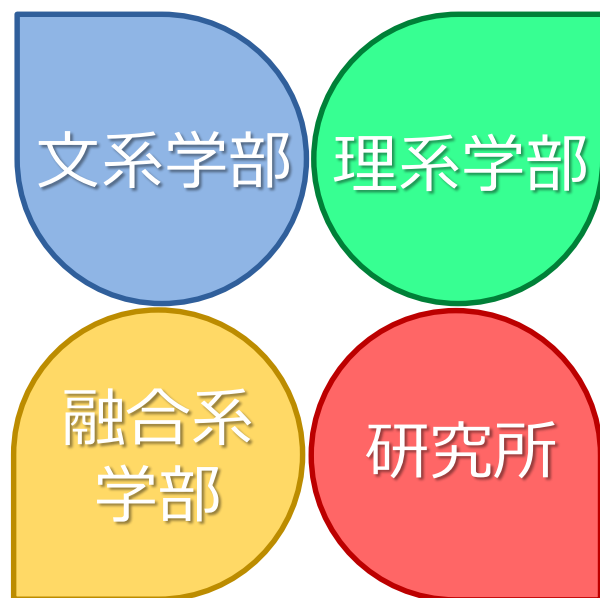
文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」採択事業

地域特有の課題や全国共通の課題を全ての教職員・学生が共有し、協力して解決策を見出す取り組み

大学がこれに貢献・対応できる体制となっているか！？

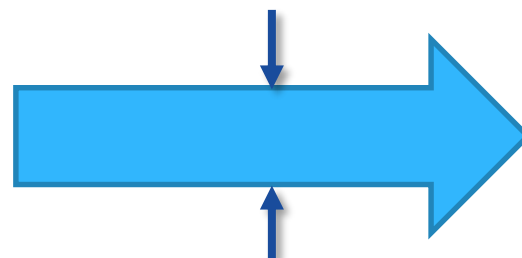
研究の方向性

これまで



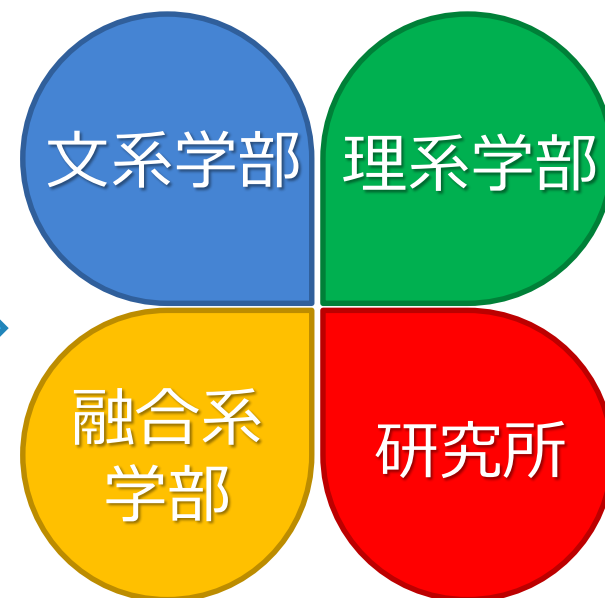
様々な学部や研究所を
そろえても…
それぞれの接点は小さく
向きはバラバラ

建学の精神



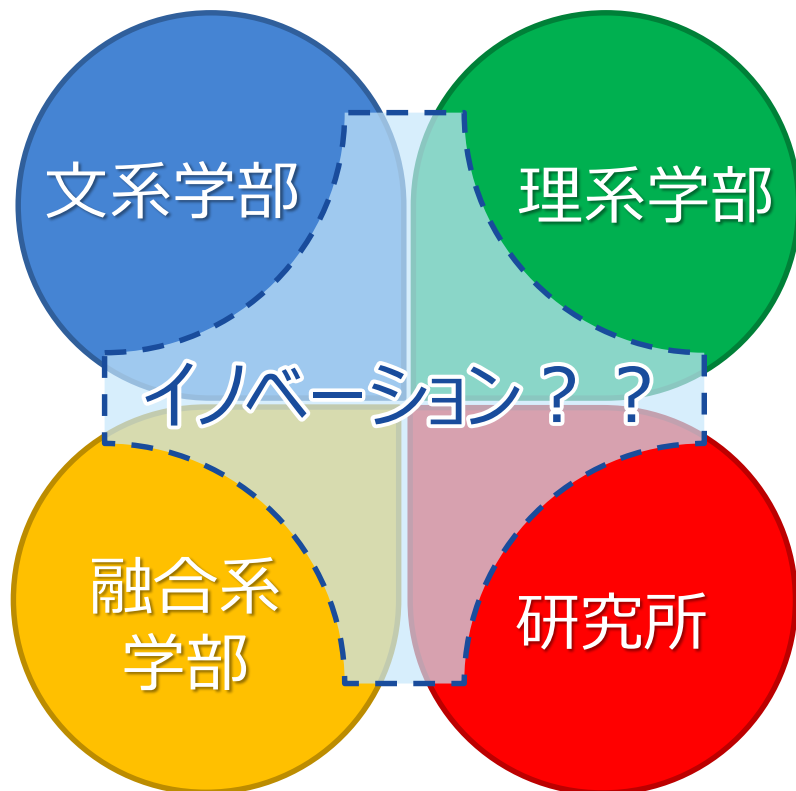
第5期科学技術
基本計画

理想



様々な学部や研究所の
特色を生かし
接点を大きく、同じ向き
を向いた研究

同じ方向を向き接点を増やすために



研究の峰



幅広い分野の研究者による共同研究を促進して大学全体の研究力の底上げを図るとともに、世界をリードする研究成果の社会に向けた発信を目指すもの

接点を増やし、新たな研究を構築・社会に成果を発信

研究者同士が知り合う機会

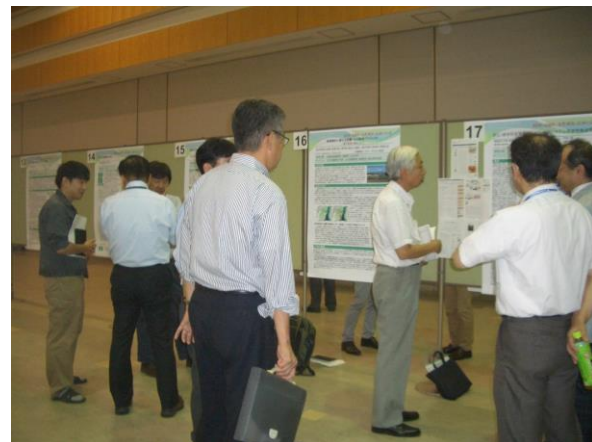


- 隣の研究室が何をやっているかわからない…
- 他キャンパスの教員と知り合いたい…
- 自分の研究を誰かと生かせないかな…
- 異分野融合の研究を求められるけどその方法がわからない…
- 今の研究に行き詰ってこの先どうしたらいいかわからない…

研究交流会 58件 (53名)

文系から理系まで様々なテーマが出展
学会形式で意見交換
研究室・研究者の研究内容を広く紹介

- ポスターセッション
- ショートプレゼンテーション



新たな研究グループの創出のきっかけに

研究交流会のメリット

出展時

- **知り合いが増えるきっかけ**
特に他キャンパス
- **旅費がかからない**
出展費用は大学負担
- **昼食・軽食付き**

出展後

- **ユニット登録制度**
企画書の提出により様々な支援
- **打ち合わせ経費負担**
交流会後の打ち合わせ費用を
大学が負担

今後は… ※検討中

- **ユニットへの学内施策からの支援**
学内研究費の傾斜配分・学内共同研究スペースの優先利用
- **積極的な広報**
大学の“お墨付き”を示した各種広報戦略
- **外部研究費獲得支援**

2016年9月12日（月）～13日（火）開催

基本

- ポスターセッション
- ショートプレゼンテーション
- 研究者（教員）

- 研究者+**学生**

- 研究ユニット研究発表会
- 付置研究所紹介発表会
- 特定研究ユニット発表
- 新設研究所研究紹介
- 女性研究者限定発表
- 共同研究者募集発表

プレゼン時間：10分～20分

2016年度参加者

- ポスター：87テーマ
- ショートプレゼンテーション：47件

ご清聴ありがとうございました

健康寿命延伸にむけた取り組み～ 「センター・オブ・イノベーション(COI) プログラムの紹介」



今の夢。10年後の常識。
新しい未来を作りたい。

順天堂大学

研究戦略推進センター URA 櫻井孝司

学是

仁

人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心。これ即ち「仁」

創立178周年（天保9年・1838～）



順天堂大学の基本情報

本郷・お茶の水キャンパス 順天堂医院

・医学部、国際教養学部、3大学院研究科



練馬病院



順天堂越谷病院



さくらキャンパス

・スポーツ健康科学部
(医学部、医療看護学部)



三島キャンパス

・保健看護学部



静岡病院



順天堂東京江東 高齢者医療センター



浦安病院



浦安キャンパス

・医療看護学部





順天堂大学の基本情報

- **5学部** 医学 スポーツ健康科学 医療看護学 保健看護学 国際教養学
- **3研究科** 医学 スポーツ健康科学 医療看護学
- **12研究センター／研究所**
 - アトピー疾患研究
 - 環境医学研究
 - スポーツロジック
 - 難病の診断と治療研究
 - 研究基盤(共用実験施設)
 - スポーツ健康医科学研究
 - 老人性疾患病態・治療研究
 - 感染制御科学研究
 - ゲノム・再生医療
 - 静岡災害医学研究
 - 疾患モデル研究
 - 女性スポーツ研究
- **学生数** 4,410名
- **常勤教員数** 1,532名



教育と研究の新しい取り組み

● 日本医学教育歴史館（順天堂大学）



参考資料

開館日 毎週 火曜日・木曜日
開館時間 ①午後1時からの部：午後1時～午後2時
②午後2時からの部：午後2時～午後3時
入館料 無料(要予約)



アクティブ・フォー・オール参加機関

【中心機関】 立命館大学

【サテライト機関】 順天堂大学

【中心企業】 東洋紡(株)

【参画機関】 滋賀医科大学、近畿大学、オムロンヘルスケア(株)、パナソニック(株)、大和ハウス工業(株)、(株)東大阪スタジアム、(株)日立製作所、(株)ニッピ、大日本印刷(株)、花王(株)、東急不動産(株)

アクティブ・フォー・オール コンセプトビデオ



YouTubeリンク <https://youtu.be/QwFznXKPQ18>

運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点

ビジョン(実現すべき未来)

活力ある社会の実現 Active for All (健康・幸福寿命の延伸、寝たきりをゼロに)

立命館大学

スマートウェア①

空間シェアリング②

運動誘導③

第3フェーズ: 実用化・社会実装(製品化、多様化)

第2フェーズ: 実用化準備(基盤技術、要素技術)

順天堂大学

①ロコモ対策支援機器等

②在宅ロコモ予防支援

③アンチロコモサプリ

順天堂サテライト拠点

～ロコモ予防・改善のための健康・医療イノベーション～

順天堂大学 研究拠点

スポーツロジセンター

骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト
ロコモティブ症候群予防グループ

スポーツ健康医科学研究所

子どもの健康づくりのためのスポーツ医科学研究拠点の形成

女性スポーツ研究センター



医学部附属病院群



高齢者のみならずごなたにも
専門的医療を提供いたします。

女性医師
の活用

COI参画企業 ⇒ 「学」を活用



連携

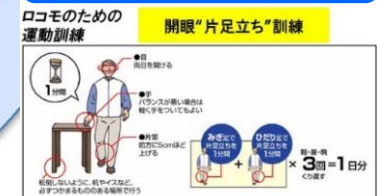
日本整形外科学会
ロコモチャレンジ!
推進協議会

社会連携

連携自治体



実証の場

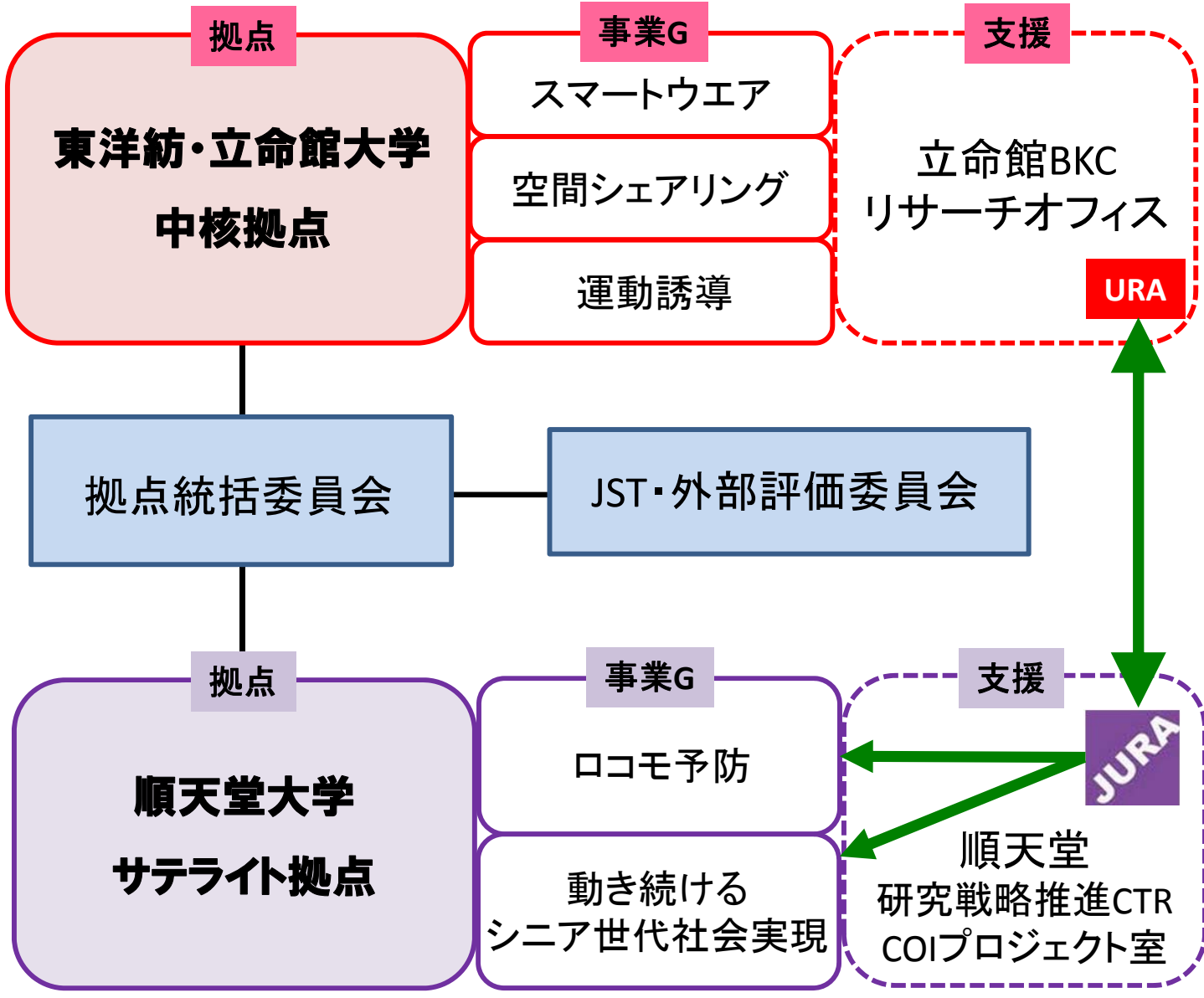


・片足立ちは両足立ちに比べて 2.75倍の負荷がかかる
・1分間片足立ち訓練=約53分間歩行に相当

ロコモ進展予防・ロコモ発症予防

社会実装化へ

アクティブ・フォー・オール拠点とURA業務



ポストアワード業務

- ・拠点・事業支援・推進
- ・対外発表・協働催事



対外発表事例 1 (HP)

<http://www.juntendo.ac.jp/coi-s/>

ロコモ予防・改善のための健康・医療イノベーション

ロコモの見える化と予防により寝たきりゼロへ

COI-S (サテライト) COI STREAM
(平成27年度～平成33年度:予定)

「ロコモ時計」を巻き戻す。

少子高齢化先進国としての我が国の活力を維持し、持続的に発展するために、国民一人ひとりが、高齢世代に達した後も、健康かつ終身現役でその能力を発揮し、自己実現とともに社会に貢献できる健康や環境の向上を図ることが重要です。病気や高齢に伴い、移動能力が低下する「**ロコモティブシンドローム**」(以下、ロコモ)は、メタボ症候群の悪化やサルコペニア(加齢性筋萎縮)を経て発症し、認知機能低下とともに、負の連鎖のもと、寝たきり、要介護状態に至る主因となっています。

→ COI-T (平成25～26年度の活動) はこちら → プロジェクト概要

プロジェクト概要

プロジェクト概要 | ロコモ発症予防 | ロコモ進展予防

文部科学省/JSTセンター・オブ・イノベーションプログラム
「ロコモ予防・改善のための健康・医療イノベーション」
COI-S (サテライト) (平成27年度～平成33年度:予定)

少子高齢化先進国としての我が国の活力を維持し、持続的に発展するために、国民一人ひとりが、高齢世代に達した後も、健康かつ終身現役でその能力を発揮し、自己実現とともに社会に貢献できる健康や環境の向上を図ることが重要です。



骨、軟骨、筋肉、関節、椎間板といった運動時の衝撃のために移動機能の低下をきたした状態を「ロコモティブシンドローム(以下、ロコモ)」といいます。ロコモが進行すると支援や介護が必要になるリスクが高まります。いつまでも自分の足で歩き続けることができるために、ロコモを予防し健康寿命を延ばしていくことが求められています。

ロコモに関する詳しい情報は、[ロコモチャレンジ! 豊田\(仮\)の活動を](#)ご覧ください。

→ [ロコモチャレンジ!](#)

実施体制

詳細へ取り組む実施体制をご紹介します。

サテライトリーダー

木南 英紀 (順天堂大学)

本プロジェクトリーダーは1943年神奈川県生まれ。1968年岡山大学医学部を卒業。医学博士。1972年徳島大学医学部付属神経学教室臨床助手を経て、徳島大学医学部神経科助教授を経て、1988年順天堂大学医学部教授、学長事務、医学部長、大学院臨床学研究所長、学長を歴任。

研究分野は生化学、病理生理学、細胞生物学、内科学として出現した糖尿病、代謝病を研究し、タイプ2である「脂肪性肝炎」の研究分野の創始者として世界的に「脂肪性肝炎」において日本、世界をリードする研究業績を上げてきた。糖尿病、細胞内シグナル伝達、環境に起因して生物が生まれていくには、一見無関係にも思えるタンパク質分解が必須であることを証明した。

主要研究メンバ

◎佐藤 信雄 ◎内藤 久士 ◎町田 修一 ◎平澤 恵理 ◎濱田 千江子 ◎石島 智章 ◎藤岡 優治

佐藤 信雄 (順天堂大学)
医学・特任教授
<神経科学>

内藤 久士 (順天堂大学)
スポーツ健康科学研究科・研究員
<スポーツ健康科学>

町田 修一 (順天堂大学)
大学院臨床学研究所・主任教授
<運動生理学>

平澤 恵理 (順天堂大学)
医学研究科老人性疾患研究センター
<看護学>

濱田 千江子 (順天堂大学)
大学院臨床学研究所
<看護学>

石島 智章 (順天堂大学)
大学院臨床学研究所
<整形外科学>

成果報告

成果報告 | プレス発表

概要

少子高齢化先進国としての我が国に対し、全国民が健康かつ終身現役で能力を発揮するため、「運動」を媒介に「スポーツ・運動」と「医療」の両輪から健康を維持・増進を目指します。全てのひとをアクティブな状態へ誘導し、「日本の誇るべき社会」を実現します。

本サテライト拠点(COI-S)では、このビジョンの達成を目指して、「生活習慣で運動量を増やすことができる「寝たきりゼロ」を目指して「ロコモティブシンドローム(ロコモ)の予防」を重要視し、「ロコモ予防」と「ロコモ改善」を予防する研究開発をCOI-9連携研究拠点とも連携しました。

平成27年度成果

ロコモ発症予防事業

- ベースライン調査およびロコモ予防推進の推進のためのロコモ度測定実施。
 - 順天堂大学 (協力:佐倉市、白井市、成田市ほか)
- 縦断的コホート研究参加者(成田市ほか)のデータ管理システムの構築。
 - 順天堂大学、日立製作所
- ロコモ予防のための運動プログラムおよび支援機材の構築。
 - 順天堂大学、花王、東急不動産

ロコモ進展予防事業

- 尿・血液中のGHL+GGHL量がOA患者で有意に増加することを確認。
 - 順天堂大学、ニッピ
- ヒトに対するコラーゲン食の効果検証とアンチロコモサプリメントの試作。
 - 順天堂大学、ニッピ
- 在宅・ケアハウスの対象者への社群管理連携システム(試作)の開発。
 - 順天堂大学、日立製作所、大日本印刷

対外発表事例 2 (iPhoneアプリ : ロコモニター)

北米、日本より配信。2016年7月時点で日本発アプリは7。私大からは慶応義塾(2015年11月)、順天堂(2016年2月)、早稲田(2016年7月)。

日本初のロコモ研究アプリ



日経新聞 20160724



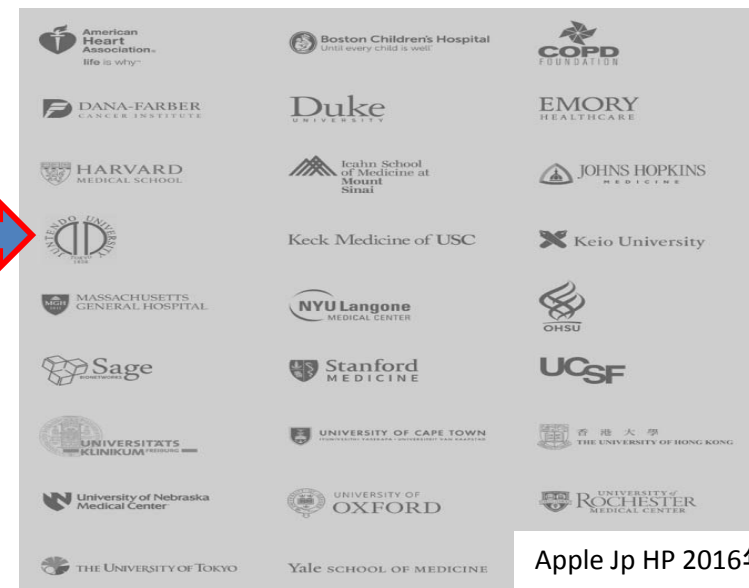
MacFan 2016年4月



メニュー

データ取得

判定結果



Apple Jp HP 2016年4月

立命館大学との学術交流包括協定調印式



調印日 2015年10月7日
於 順天堂大学

「スポーツ・健康」と「セルフケア・医療」の融合による健康・幸福寿命の伸延、寝たきりゼロを目指す

